

平成21年3月18日発行
編集：中国学園大学現代生活学部
人間栄養学科

第15号



中国学園大学現代生活学部

人間栄養学科NEWS

問い合わせ先：
中国学園大学現代生活学部
人間栄養学科
Tel & Fax. 086-293-0247
E-mail. eiyou@cjc.ac.jp

ホームカミングデー開催

第2回 栄養士課程卒業生の集い

平成20年11月22日(土)に栄養士課程同窓会花かえでの第2回ホームカミングデーが開催され、会場は新築の12号館第2学生ホールに約70人の同窓生が母校に集いました。

「皆さんお帰りなさい!」の一言から会は始まり、級友、恩師、母校との久しぶりの再会を懐かしみつつ楽しい時間を過ごすことができました。今回のような大きなホームカミングデーは4年ごとに開催する予定です。「夏のオリンピックが開催された年の秋頃にまた再会しましょう!」を合い言葉に閉会しました。

学年、世代を超え、ますます同窓生の輪が広がっていくような「花かえで」になるよう、こつこつと活動を行きたいと思っています。(真鍋芳江)



ボランティア活動をしました。参加した学生は、「料理のコツや栄養に関する考え方など、様々なことを一つ一つ丁寧に教えてくださり、また大量調理が初めての私たちにとって、大変勉強になる貴重な体験でした(春松美緒)」と感想を述べています。また、地域の方からは、「この度は、とても美味しいお弁当に添えて、心優しいお便りをいただき、本当にありがとうございました」とお礼の文をいただきました。実際に地域の方と共に、活動したことを通じて、地域における栄養活動の現状を垣間見ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。学生は地域の方からの感謝の言葉やふれあいに大きなやりがいを感じたことと思います。管理栄養士を目指す上で、このボランティア活動を通して得た経験や学ぶことでできた多くのことを、今後に活かし日々の学習に励んでくれることと思います。(北島菓子)



ボランティア活動記録

2008年度人間栄養学科

今年度実施した人間栄養学科学生によるボランティア活動を下表にまとめました。4年目を迎えた学校給食支援、昨年度開始した高齢者施設での昼食支援に加えて、手作り弁当宅配支援(内容は別記事)、小学校の授業・食育活動支援、まちかど博物館支援など地域からのさまざまな要望に応え、各学年の学生が幅広い分野で活躍しました。このような依頼の増加は、本学が地域に浸透し、信頼されてきたことの証です。今後も気持ちを引き締め、地域に信頼され役立つ活動を行ってゆきたいものです。

	実施場所	参加学生	人数
学校給食支援	岡山市立陵南小学校、吉備小学校1, 2年生対象	3年生全員+4年生有志	85
高齢者施設昼食支援	グループホーム吉備の里		20
食育推進活動支援	岡山市立陵南小学校、総社市立山手小学校	4年生(横尾ゼミ)	6
環境学習支援	岡山市立陵南小学校6年生対象	3年生有志	10
吉備・陵南まちかど博物館	「吉備・陵南まちかど博物館」実行委員会主催	1年生有志+3年生有志	19
弁当宅配支援	吉備学区栄養改善協議会主催	2年生全員	55

今年度は、3年生の松重結子さんが岡山市学校支援ボランティア「学生シンポジウム」実行委員に立候補しました。2月8日に行われたシンポジウムの運営に携わり、併せて本学の給食支援ボランティアについての報告を平井麻子さん(3年生)と共にし、他大学の学生に伍して重責を果たしました。今後も立候補が継続することを願っています。(高 早苗)

手作り弁当ボランティア

吉備学区の婦人会および栄養改善協議会の方と一緒に吉備公民館にて、お弁当や添え文を作り、地域の高齢者の方へ宅配するという

高大連携授業—高松農業高校—

平成20年8月4日~7日の4日間、岡山県立高松農業高校の生徒(2年生38名、引率教諭2名)を対象に、本学において実習・実験授業を行ないました。科目は、多田幹郎教授による食品学実験(4・5日、葉菜類を中心とした分析)、と高早苗教授・真鍋芳江講師による栄養学実習(6・7日、身体計測と食事調査による栄養アセスメント)でした。真夏猛暑に負けず、生徒達は不慣れながらも熱心に受講し、「面白かった」「ためになった」と大変好評でした。

工場見学、テーブルマナー研修



1年生は21年2月12, 13日、工場見学、テーブルマナー研修を兵庫、大阪で行いました。醤油、そうめん、マヨネーズ生産工場、インスタントラーメン発明記念館などを見学し、神戸ベイシェラトンホテルではテーブルマナーについて講習を受けました。食べ物や食文化について理解を深めることができました。

工場、インスタントラーメン発明記念館などを見学し、神戸ベイシェラトンホテルではテーブルマナーについて講習を受けました。食べ物や食文化について理解を深めることができました。

吉備・陵南まちかど博物館

中国学園学のある吉備・陵南地区は、旧街道「庭瀬往来」周辺を中心に、城跡、寺院、古民家など歴史ある遺跡や建造物が点在する文化の香り豊かな地域です。平成17年にこの地域一帯をひとつの博物館に見立てた「吉備・陵南まちかど博物館」が初めて開催され、今年で4回目を迎えました。中国学園は、毎年学生が多数ボランティアスタッフとして参加し、運営上なくてはならない存在として活



躍しています。今年も11月2日(日)、さわやかな秋晴れのもと県警音楽隊の先導による本学学生による仮装パレードが会場一体を練り歩いて幕開けを告げました。

民家、商家、寺院、公民館などを会場に、展示、体験、演奏会などさまざまなイベントが開催され、終日多くの人で賑わいました。本学園からは、ボランティアスタッフ約100人が参加、地域の方々や参加者と交流しました。人間栄養学科では、1年生有志が、仮装パレード、おやつ屋台、「庭瀬検定」のクイズ作りなどで大活躍、3年生有志による焼きそばの屋台も大好評でした。(高 早苗)

料理コンテストで佳作

河端みずえさんが受賞

平成20年度「おかやま米粉アイデア料理コンテスト」に、本学科2年生・河端みずえさんが「もっちもち☆デカ饅頭」を出品し、佳作(岡山県農林水産部長賞)に選ばれました。

このようなコンテストは他にもありますので、在学生の皆さんも奮って参加しましょう。



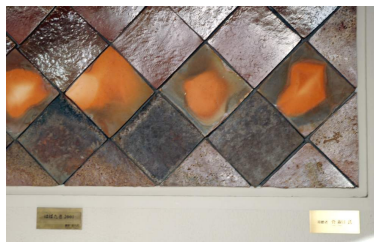
入学前学習会開催

平成21年2月12、13日に入学決定者の希望者を対象に生物(川崎祥二教授)、化学(中尾安男教授、嶋田義弘教授)の学習会を開催しました。参加者は34名、終始和やかな雰囲気の中で早くも友人ができた、クラス分けのことを心配していました。今年はe-ラーニング導入の試みとして、千歳科学技術大学と(株)日立のご協力を得て、コンピューターによる問題提示、解答採点を行いました。参加者には



図書館入り口の「備前焼陶板」について

図書館入り口の備前焼陶板「はばたき2001」は、図書館の落成を祝して、名誉教授菅淑江先生のご依頼により備前陶芸家、藤原喜久代氏が作製されたものです。V字をデザインし、大きな翼で飛び立つイメージで、学園創立40周年記念にふさわしい壁陶板です。寄贈者の管先生は在職中には名前を出すのを辞退されていましたが、昨年3月ご退職になったので、大学からの御礼の意を込めて記銘金板を貼付しました。



中国学園大学公開セミナー記録

第41回 橋本一美氏 (平成20.2.13、16:30～、1301教室)

K&K 国分株式会社

「地域に貢献する食品の新しい付加価値を探る-社会環境の変化の中で-」

第42回 木野山真紀 助教 (平成20.4.23、16:30～、1301教室)

「呼吸ガス分析の栄養学研究への応用」

第43回 川崎祥二 教授 (平成20.5.28、16:30～、1301教室)

「温熱と健康」

第44回 徳田 雅明 氏 (平成20.6.25、16:30～、1301教室)

香川大学 教授

「かがわ発「希少糖(きしょうとう)」によるメタボリックシンドローム克服への挑戦」

天然に微量にしか存在しないが、しかし数十種類もの多様性のある単糖およびその誘導糖である希少糖について、その生産技術の開発や医薬品としての開発研究について、また、今回はD-ブシコースが生活習慣病(メタボリックシンドローム)克服に有効である可能性について最近の知見を紹介された。

第45回 西 克彦 氏 (平成20.7.16、16:30～、M301教室)

岡山県保健福祉部 総括副参事

「岡山県の食の安全に対する取り組み」

岡山県は平成18年12月、「岡山県食の安全・安心の確保及び食育の推進に関する条例」を制定し、さらに、食品の安全・安心の確保に関する施策を総合的かつ計画的に展開し、健康で豊かな生活の実現への寄与を目的として、「岡山県食の安全・安心推進計画」を策定した(平成20年3月)。この推進計画の背景として論議された「岡山県の食を取り巻く現状と課題」ならびに「推進計画の基本方針、施策の方向」を紹介された。

第46回 辻本 美由喜 氏 (平成20.9.24、16:30～、M301教室)

真庭市保健福祉部 参事

「真庭市の食育推進計画とその実践」

平成20年3月に真庭市食育推進計画を策定した。この計画の位置づけや真庭市の食育をめぐる現状と課題、目指すべき方向とそれに向けて協働で取り組んでいる様子を紹介された。

第47回 板野 俊文 氏 (平成20.10.22、16:30～、1301教室)

香川大学 教授

「パーキンソン病や痴呆症は薬で治るか?—動物実験での試み—」

パーキンソン病や痴呆症を、具体的な例として解説され、その薬物治療について述べられた。さらに、脳梗塞、てんかん、脊髄損傷、についても一部紹介された。

第48回 有森 裕子 氏 (平成20.11.22、13:00～、M301)

オリンピック銀メダリスト

野崎 幹子 氏 東京二期会・三宅 明人 氏 ヤクルト本社

「健康づくり提唱のつどい」

有森 裕子氏(オリンピック銀メダリスト)、野崎 幹子氏(歌手:東京二期会)、三宅 明人氏(ヤクルト本社)を迎えて開催した。参加者約300名であった。最初に本学3年生有志による「すごいぞ!!やさいのちから」という映像を使った紙芝居や野菜のダンスを行い、会場の参加者も一緒に楽しく踊った。有森氏の講演では幼少から現役時代の食に関するエピソードを中心に話された。



第49回 人間栄養学科4年生 (平成20.12.17、9:00～、M301)

「平成20年度人間栄養学科卒業研究発表会」

第50回 多田 幹郎 教授 (平成21.1.14、16:30～、M301教室)

「食の安全を”サイエンス”で理解しよう」

佐々木敦子教授ご逝去

先生は昭和41年3月奈良女子大学食物学科を卒業され、同年4月に短期大学の助手として就職されました。以来、平成19年3月の定年退職まで、41年間にわたり勤続され、名誉教授の称号を受けられました。穏やかなお人柄で多くの学生がその聲に接して薫陶を受け、心から慕っておりました。晩年は難病と戦いながらも学生の指導を続けられましたが、ご退職後、病氣療養中のところ、平成21年6月、惜しくもご逝去されました。長年にわたる本学へのご貢献に感謝し、ここからご冥福をお祈りいたしたいと思います。